

(4) 地目交換

(第20表-4)

項目 区分	面積 (ha)	工 法	備 考
計			

(5) 末端用水路等

(第20表-5)

項目 区分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

(6) 末端排水路等

(第20表-6)

項目 区分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

2. 土壤改良 該当なし

(第20表-7)

項目 区分	面 積 (ha)	石灰量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備 考
計					

第5節 洪水調整機能 該当なし

1. 貯水池 該当なし

2. 頭首工及び導水路 該当なし

(1) 頭首工

(2-1)

(第21表-2)

名 称			位 置		
			提 長 (m)		
形 式	集水面積 (km ²)	提 高 (m)	固定部	可動部	計

(2-2)

(第21表-2)

名 称			備考
	計画洪水位 (m)	付帯施設	
形 式			

(2) 導水路

(2-1)

(第21表-3)

項目	通水量 (m ³ /s)	延 長 (m)		
		トンネル	その他	計
水路名				

(2-2)

(第21表-3)

項目	構 造	勾 配	備 考
水路名			

第6節 干拓施設

該当なし

1. 堤防

該当なし

(2-1)

(第22表-1)

項目 名称	型式	延長 (m)	構造		
			堤頂標高 (m)	盛土幅 (m)	盛土標高 及び舗装

(2-2)

(第22表-1)

項目 名称	構造		原地盤標高(m)		備考
	上流斜面	下流斜面	平均	最低	

2. 潮止め

該当なし

(2-1)

(第22表-2)

項目 名称	工法	幅員 (m)	敷高標高 (m)	潮止め堤標高 (m)

(2-2)

(第22表-2)

項目 名称	最大流速 (m)	床固め構造	備考

3. 付属施設

該当なし

4. 埋立

該当なし

(第22表-3)

項目 区分	面積 (ha)	埋立標高 (m)	埋立標高 (m ³)	施工方法	構造

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標準区画	土 量 (m ³)	面 積 (ha)	土 量 (m ³)	
下南	55.3	200×100	170,732	55.3	398,650	

(2) 末端用水路等

(第23表-2)

項目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

(3) 末端排水路等

(第23表-3)

項目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(3-1)

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)			集水渠			
	事業名			勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)
			計				
計							

(3-2)

(第23表-4-1)

項目 区分	排水渠						名称
	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	
計							

(3-3)

(第23表-4-1)

項 目	集水渠出口以下の排水施設		備 考
	構造	数量 (m/ha)	
区 分			
計			

(2) 心土破碎

(第23表-4-2)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

3. 客土 該当なし

(2-1)

(第23表-5)

区 分	項 目	面 積 (ha)			客入土量 (m^3)	土取場土量 (m^3)	運搬距離 (km)
		事 業 名					
				計			
計							

(2-2)

(第23表-5)

区 分	項 目	運搬方法	備 考
計			

4. 除礫

該当なし

(第23表-6)

区 分	項 目	対象土層の 厚さ (cm)	ha当たり標準 除礫量 (m^3/ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計						

5. 農地保全

該当なし

(1) 防災林

(2-1)

(第23表-7)

区 分	項 目	幅 (m)	延 長 (m)	面 積 (ha)	樹 種
計					

(2-2)

(第23表-7)

区 分	項 目	植 栽 本 数 (本)	備 考
計			

(2) 排水路

(第23表-8)

項目 区分	延長 (m)	流量 (m^3/s)	構造	備考
計				

(3) 浸食防止工

(第23表-9)

項目 名称	構造	数量	備考
計			

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

1. 貯水池

該当なし

(第24表)

名称					位置			
提体	形式	流域 (km^2)	提高 (m)	提 長 (m)	提体積 (m^3/s)	提頂幅 (m)	貯水量 (km^3)	備 考
洪水吐	形式	洪水量 (m^3/s)	規模 (m)	備 考	取水 施設	形式	取水量 (m^3/s)	備 考

2. 提体補強施設

該当なし

(1) のり面保護施設

(2) 漏水防止工

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着手	平成	28 年度
完了	令和	8 年度

第8章 環境と調和への配慮

1.事業計画における配慮

事業計画の策定に当っては、環境調査結果を十分反映させた、環境への配慮に努めた計画を策定するものとする。また、浸透池の維持管理のため、土砂が堆積した場合はバックホウ等で浸透池内の堆積土砂の除去を行い、施設の管理を行う。地下埋設型浸透池についても施設の呑口の堆積土砂の除去を行い、施設の維持管理を行う。

2.工事実施における配慮

工事実施に当っては、環境に負荷を与えるのを最小限度に抑えるための工夫を検討し、地区外への影響が出ないように留意して施工を行う。また、工事期間中は、「赤土等流出防止条例」に基づいて、浸透池の設置、降雨時のシート被覆等により赤土等の流出防止対策を重点的に行う。

3.赤土等流出防止への配慮

工事実施においては、浸透池等の赤土等の流出防止施設を先行して設置することにより、地区外への赤土等の流出を防止する等、「赤土等流出防止条例」に基づいた各種赤土等の流出防止対策を重点的に行う。また、工事完了から農家に利用される間の裸地対策として、クロタリヤ等による速やかな畑地植生を施するとともに、畑の際にグリーンベルトを植栽し、農地からの赤土等の流出防止に努める。

4.貴重な動植物、文化財及び景観などへの配慮

①植物の保全対策

当該地区は現況が一部原野を除き、ほとんどが農地である。文献等においては当該地域で貴重な植物は確認されていないことから、事業実施による影響はほとんどないと考えられる。

②動物の保全対策

宮古島市では貴重種の生息が数種確認されており、当該地区においても貴重種が生息している可能性はあるものと思われる。工事実施に伴い貴重種が確認された場合は、すみやか近隣に移動する等の対策を講じることとする。また動物の保護対策として、計画地区を8カ年で整備完了するように造成区域を分割して、当該造成区域内に生息する動物の周囲への避難・回避を促す整備を図る。このように、事業実施にあたっては、生息状況を見ながら環境に配慮する事項について弾力的な対応を行うこととする。

5.文化財への配慮

当該地区には文化財が存在しない。

6.その他配慮

①専門家の指導助言

調査結果、環境への配慮事項については、必要に応じて調査専門家の指導、助言を取りまとめる。

②実施・補足調査

当該地区は、既存の自然環境調査、文献等による資料収集により地区の現況把握に努めるが、不測の事態等が生じた場合は、必要に応じ補足調査を行う。

③実施・補足調査

事業実施後、自然環境が大きく変化したと認められる場合は、事後調査を行うこととする。

